

○なかよし旬間「地獄と天国」（平成29年11月8日）

大塚

全校の皆さん、おはようございます。今週と来週は「なかよし旬間」ですね。日本一のなかよしをめざす徳間小にとってすごく大切なものです。そこで、今日は「地獄と天国」というお話をします。どんなお話か楽しみにしてくださいね。それでは矢澤先生、お願いします。

（矢澤先生、お話を始める）

昔々あるところに、五平さんという人がいました。五平さんは、ある晩、眠っているうちに死んでしまいました。そこで五平さんは、えんま様の前に行って自分が死んだことを届け出ました。えんま様は、五平さんを天国へやろうか、地獄へやろうかと思って、えんま帳を調べました。ところが、まだ五平さんが死んだという通知が来ていないことがわかりました。そこで、えんま様は五平さんに、「おまえはまだここに来るのは早い。もう一度帰れ」と、言いつけました。

五平さんは、とっても喜んでさっそく帰ろうと思いましたが、せっかくここまで来たのだから、ひとつ地獄や天国を見物していこうと思いました。

五平さんは、まず地獄をのぞいてみました。するとビックリ…地獄といえば赤鬼や青鬼がいて、針の山や地獄の釜がある恐ろしいところだと聞いていましたが、どうしてどうして、こざっぱりしたところで、真ん中のテーブルには白いクロスがかけてあり、その上にはたくさんのごちそうがあります。ところがそこにいる人たちは、みんな骨と皮ばかりにやせて、目はくぼみ、青白い顔をしています。おやおや、これから食事が始まるようですよ。皆さんものぞいてみましょう。

（校長、宮沢T登場 ※黒い上着）

校長「あ～、地獄のルールは面倒くさいなあ。この箸でしか食べてはいけないんだもの。

しかも、ここにしか持ってはいけないんだもの」

宮沢「本当、本当。もしもルールを破ったら、鬼たちにもものすごく怒られるし」

校長「これ、うまそうだな」

宮沢「本当だ。ぼくも食べよう」（箸を出す）

校長「（その箸を払いのけながら）これは俺が先に見つけたから俺のもんだ。箸を出すな」

宮沢「エー、意地悪。じゃあ、こっちを食べようかな」（箸を出す）

校長「（その箸を払いのけながら）これも俺のもんだ」

「それ、うまそうだな」（箸を出す）

宮沢「（その箸を払いのけながら）これは俺のもんだ。手を出すな」

二人「フン」（交互に）

二人は自分の近くのものをとって食べようとする。

校長「ちくしょー、箸が長すぎて食べられないよー」

宮沢「あーあ、お腹がすいたよー」

（二人、引っ込む）

あれあれ、地獄ではケンカばかり。だからみんなやせこけていたのですね。

五平さんは「これはこれは気の毒に」と思いながら、続いて天国をのぞいてみました。するとビックリ…地獄の様子とほとんど変わりません。こざっぱりしたところで、真ん中のテーブルには白いクロスがかけてあり、その上にはたくさんのごちそうがあります。食べる時のルールも地獄と同じようです。ところがそこにいる人たちは、誰もやせている人はいなくて、みんな笑顔です。幸せそうな顔をしています。おやおや、これから食事が始まるようですよ。皆さんものぞいてみましょう。

(校長、宮沢T登場 ※白い上着)

校長「これ、おいしそうですね」

宮沢「本当だ。おいしそうですね」

校長「あなた、いかがですか、どうぞどうぞ」(箸を相手の口のところへ)

宮沢「ありがとうございます。もぐもぐ。あ～おいしい。あなたもいかがですか」

校長「ありがとうございます。もぐもぐ。あ～おいしい」

(宮沢Tと校長で食べさせ合う。しばらく演じ、二人引込む)

それを見ていた五平さんは思いました。地獄と天国は仕組みは同じだけど、自分だけ食べようとする地獄になり、相手のことを考え食べさせてあげると天国になるんだ。「なるほど、なるほど、それだけの違いなんだな…」と気づいたら、五平さんはやっぱり布団の中で寝ていたそうです。おしまい。

皆さん、今の話を振り返ってみましょう。

地獄は「自分だけ 食べようとする」

天国は「相手のことを考え 食べさせてあげる」

実はそれだけの違いで、自分の生活は地獄にもなるし天国にもなるのですね。

「自分だけはダメ、相手のことを考えよう」

これって何かに似ていませんか？

そう、徳間小の約束「自分がされていやなことは、人にしたり、言ったりしません」と同じですね。皆さんが徳間小の約束を守ることは、徳間小を天国にすることなのです。だからこそ、この約束はとってもとっても大切なのです。

最後に全校のみんなで徳間小の約束を読んで終わりにしましょう。

「自分がされていやなことは、人にしたり、言ったりしません」